

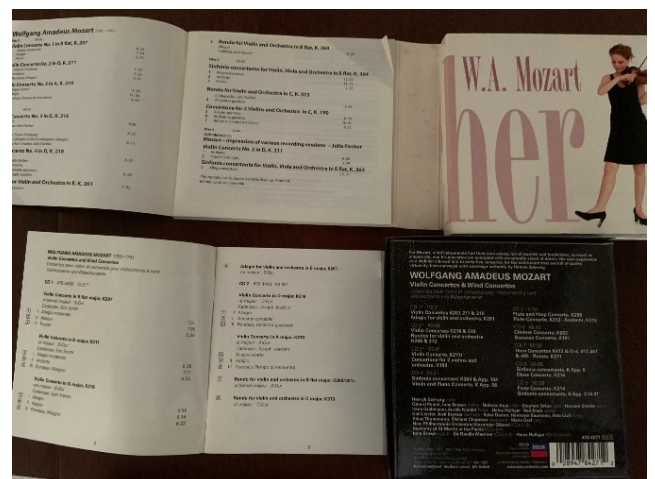
K212 は、教会ソナタ（第6番） 変ロ長調 で、これまでの教会ソナタと同じように、ヴァイオリン2部と、チェロ・バス、オルガンの編成で、演奏時間数分の佳曲で、1775年5月ザルツブルクで作曲されました。

K213 は、ディヴェルティメント 第8番 へ長調 です。1775年7月にザルツブルクで作曲され、オーボエ・ホルン・ファゴット各2本の編成で、4楽章合わせて10分位の作品です。

K214 は、行進曲 へ長調 で、ホルン2、ヴァイオリン2部と、ヴィオラ、チェロ・バスの編成で1776年6月にザルツブルクで作曲されました。同時期に完成したディヴェルティメント へ長調 K247 の開始曲または終曲として演奏する目的で書かれたものと思われています。

K215 は、行進曲 ニ長調 で、前曲同様独立した曲ではなく、前号で紹介した セレナーデ ニ長調 K204 の開始曲または終曲として演奏する目的で書かれました。

K216 は、ヴァイオリン協奏曲 第3番 ト長調 です。アレグロ、アダージョ、ロンド・アレグロの3楽章よりなるモーツァルトの傑作のひとつとなっており、数多くの演奏を聴くことができます。前回で聴いた第1番 K207 と第2番 K211 から、この第3番 K216 と、第4番 K218、第5番 K219 まで、まとめて5曲のヴァイオリン協奏曲が1775年にザルツブルクで作曲され「ザルツブルク協奏曲」とまで言われることもあります。（ただ現在では第1番 K207 は自筆譜に訂正された形で1775年とありましたが、1977年に再発見された自筆譜の研究の結果、1773年作と訂正されました。） 特に第5番 イ長調 K219 は、「トルコ風」と副題がついていることもあって、数多くの録音に恵まれています。手持ちのCDも何種類もあり、これらを聴きなおすだけでも至福の時間が続きます。





K217 は、ソプラノ アリア「あなたは誠実な心の持ち主」で、1775 年（1776 年とも）10 月 26 日にザルツブルクで作曲されたアリアで「あなたの心は、今は私に」「あなたは今忠実ね」とも訳されている、ソプラノと管弦楽のためのアリアです。

K218、K219 は、前述のヴァイオリン協奏曲 第 4 番、第 5 番 です。

K220 は、ミサ曲第 8 番 ミサ・ブレヴィス ハ長調「雀のミサ」です。 1775 年 1 月ミュンヘンで作曲されました。トランペット 2 本、ティンパニ、ヴァイオリン 2 部、チェロ・バス、オルガンと独唱 4 人および合唱という編成で、キリエ、グロリア、クレド、サンクトゥスとベネディクトゥス、アニュス・デイ よりなり、演奏時間は約 20 分です。

K221 は、キリエ ハ長調 ですが、現在では、エルンスト・エーベルリン作といわれ、モーツァルトの作品目録から抹消されており、この CD 全集にも収録されていません。

K222 は 聖節の奉献歌「主の御憐みを」へ長調 です。 弦とオルガンに 4 部合唱で歌われます。7 分少々曲で、1775 年はじめにミュンヘンで、バイエルン選帝侯に対位的な教会音楽の能力を見せるために書かれたものとされています。そう思って聴くと、合唱各声部の掛け合いに、とても秀逸なものを感じます。

K223 は、オザンナ で、弦と通奏低音の 4 部合唱曲とされていますが、習作のための写譜とされ、モーツァルト作品か真偽が疑われており、この CD 全集にも収録されていません。

K224, K225 は、教会ソナタ へ長調 と イ長調 で、いずれもヴァイオリン 2 部、オルガン、チェロ・バスの編成で、1776 年初めに作曲された、数分の作品です。2 曲とも、颯爽と野原を駆け巡るようなさわやかな逸品です。

K226 と K227 は、カノンといわれますが、いずれも疑問の作で、この CD 全集にも収録されていません。

K228 は、二重のカノン「ああ、われらが人生は余りに短し」で、オリジナルはへ長調で、歌詞なし。 後に変ホ長調で、この曲の下に次の書き込み（英語）があるという。

あなたの真実で誠実な友達のことを忘れないで下さい。

ヴォルフガング・アマデー・モーツァルト          ヴィーン、1787 年 4 月 24 日

K229 ～ K234 の 6 曲は、いずれもカノンで、1782 年にウィーンで書いたものとされています。（ただし、K232 は 1787 年春の作）

- K229 3声のカノン「彼女は死んだ」  
K230 2声のカノン「ものみな幸なり」  
K231 6声のカノン「俺の尻をなめろ」  
K232 4声のカノン「親愛なるフライシュテッター君」  
K233 3声のカノン「俺の尻をなめろ」  
K234 3声のカノン「夏のさなかに俺は食う」

これらの品のない表題からも明らかのように、モーツァルトにとってのカノンは、友人たちとの座興のために書いた簡単なものばかりで1~2分の小品が大半です。バッハのカノンが対位法の至芸であることとの違いに驚きます。とくに機嫌が良いときに飛び出す糞尿談までがタイトルにあることには、言葉もありません。それこそ、わがモーツァルトが神のような存在ではなく、赤裸々な人間であったことの証であることに感心するばかりです。

K235 は、カノン ト長調 で、ピアノのための作品ですが、現在ではカール・フィリップ・エマヌエル・バッハの作品とされ、このCD全集にも収録されていません。

K236 は、アンダンティーノ 変ホ長調 で、年代不明のピアノのための1分半ほどの小品です。

K237 は、行進曲 ニ長調 で、4分ほどの作品です。本来は、K203 セレナーデ ニ長調 K203 の開始曲 あるいは終曲として演奏するために書かれた曲とされています。

K238 は、ピアノ協奏曲 第6番 変ロ長調 で、1776年1月にザルツブルクで作曲されました。第5番との間に2年余りの期間があるのは、前年に5曲ものヴァイオリン協奏曲を書き上げるために精力を注いだからであろうとされています。管弦楽は小編成に戻り（オーボエ・ホルン各2、ヴァイオリン2部、ヴィオラ、チェロ・バス）、トランペットやティンパニが省かれています。全3楽章のどの主題も平明で美しく、その処理もきめ細かい緻密さで、すべてのパッセージに至るまで、輝かしく歌っています。

K239 は、セレナータ・ノットウルナ ニ長調（セレナーデ 第6番）です。珍しい編成で、2群に分けて、第1群は、2つのヴァイオリン・ソロ、ヴィオラ、チェロ・バス、第2群は、ティンパニ、ヴァイオリン2部、ヴィオラ、チェロ・バスからなります。1776年1月にザルツブルクで作曲されました。第1楽章の独奏ヴァイオリンとティンパニとの掛け合いや、朗々とヴァイオリンが歌う第2楽章、ロンド形式の3楽章では、次々とロンド主題が心地よく展開され、奏者たちが本当に楽しく演奏しているようです。特に最近 YouTube で、N響コンマスの篠崎史紀とその仲間たちによるとても楽しい演奏 <https://www.youtube.com/watch?v=RBFfEgfgsKsU> が、コンサートでの音楽の即興性の本質を見せているようで、とても感心いたしました。



#篠崎史紀 #モーツァルト

モーツァルト/セレナータ・ノットウルナ3楽章を最高に遊び尽くす！ N響コンマスのマロ（篠崎史紀）さんとコンマス、首席奏者たち オケ創チャンネルダントツの再生回数 何度も見たくなる。(^^)

122,021 回視聴 2015/06/13

K240 は、ディヴェルティメント 第9番 変ロ長調です。オーボエ、ホルン、ファゴット各2本よりなる木管6重奏という珍しい編成で 4楽章よりなる、10分程度の佳作です。1776年1月ザルツブルクで作曲され、大司教の宮廷夜会でのターフェル・ムジークと思われます。音楽は軽く流れるように進みますが、そこには、モーツァルトならではの旋律美が満ち溢れる魅力あふれる小品と思います。

K241 は、教会ソナタ ト長調 で、ヴァイオリン2部、オルガン、チェロ・バスの編成で 1776年1月ザルツブルクで作曲された、3分ほどの佳品です。

K242 は、ピアノ協奏曲 第7番 ヘ長調（3台用）で、なんと3台のピアノ独奏による協奏曲です。1776年2月ザルツブルクで、アントニア・ロドロン伯夫人とその二人の娘、アロイジアとジュゼッピナのために作曲されたものです。管弦楽は、オーボエ・ホルン各2本に、ヴァイオリン2部、ヴィオラ、チェロ・バスからなり、アレグロ、アダージョ、ロンド・テンポ・ディ・メヌエットの3楽章より構成されています。実際に演奏するとなれば、3台のピアノを用意しなければならず、めったに演奏されることもありません。私も生演奏に接したことはありません。ピアノ協奏曲全集と銘打ったCD全集でも、この曲は収録されていないこともあったり、あるいは2台用に編曲したもの\*が収録されているものなど様々です。

\*現在の楽譜でも3台または2台兼用になっています

K243 は、聖体連禱 変ホ長調 で、1776年3月にザルツブルクで作曲されました。オーボエ・ファゴット・ホルン各2本、トロンボーン3本、ヴァイオリン2部、ヴィオラ、チェロ・バス、オルガン、独唱4人、混声4部合唱よりなる大きな編成で演奏されます。キリエ、活けるパン、肉となりしみ言葉、聖なるいけにえ、おそれおののき、甘味の聖餐、臨終聖体、来世の栄光の保証よ、神の子羊 の9曲よりなる30数分の曲です。

K244 と K245 は、いずれも教会ソナタで、前者が ヘ長調、後者が ニ長調 で、ヴァイオリン2部、オルガン、チェロ・バスの編成で演奏されます。1776年4月にザルツブルクで作曲された、演奏時間 数分 です。これらの曲から、オルガンの役割が重要になってきます。

K246 は、ピアノ協奏曲 第8番 ハ長調 で、1776年4月ザルツブルクで、作曲されました。

オーボエ・ホルン各2本に、ヴァイオリン2部、ヴィオラ、チェロ・バスからなり、アレグロ・アペルト、アンダンテ、ロンド・テンポ・ディ・メヌエットの3楽章より構成されています。ピアノ協奏曲は第20番から第27番が特に有名ですが、一桁代の作品でも、十分に楽しめる作品ばかりなのに驚き感激いたします。

K247は、ディヴェルティメント 第10番 へ長調「ロドロン夜曲 第1番」です。1776年6月にザルツブルクで作曲されました。モーツァルトの後援者であった貴族 アントニア・ロドロン伯夫人の命名祝日を祝って書いたもので、同年6月18日に同家で、初演されました。ホルン2本と弦楽四重奏（あるいは、ヴァイオリン2本、ヴィオラ、チェロ・バスの弦4部）という、室内楽的な6楽章の30分余りの長さです。

K248は、行進曲 へ長調 です。1766年6月に、ザルツブルクで作曲され、同時期に作曲されたディヴェルティメント 第10番 へ長調 K247 の開始曲 あるいは 終曲として演奏される目的として作曲されました。楽器編成も、同じく ホルン2本と弦楽四重奏（あるいは、ヴァイオリン2本、ヴィオラ、チェロ・バスの弦4部）となっています。

K249は、次の「ハフナー・セレナーデ」ニ長調 K250 の開始曲 あるいは 終曲として演奏される目的として作曲されました。編成も、K250と同じく、オーボエ・ファゴット・ホルン・トランペット各2本、ヴァイオリン2部、ヴィオラ、チェロ・バスの弦4部です。

K250は、セレナーデ 第7番 ニ長調「ハフナー」で、1776年6月にザルツブルクの市長でもあった裕福な ハフナー家の婚礼祝 のために作曲されたもので、「ハフナー・セレナーデ」と呼ばれています。アレグロ・マエストーソ、アンダンテ、メヌエット、ロンド・アレグロ、メヌエット、アンダンテ、メヌエット、アダージョ～アレグロ・アッサイという、全8楽章 演奏時間1時間弱という大作です。交響曲 第35番 も同じ「ハフナー」（こちらは、「ハフナー交響曲」と呼ばれます）なので、混同しやすく、私も「ハフナー・セレナーデ」を始めて生で聴いたときに、「ハフナー交響曲」と思い込んでおり、音楽が思っていたものと違い、しかもそれが1時間近くも続いたのには、全く驚きました。演奏後に交響曲ではなくセレナーデであることを知り、恥ずかしい思いをしたので、この「ハフナー」を目にしたときは、必ず、最初に、どちらであるかを確認するようになりました。  
(続く)

